

昭和興産インドネシア

合樹を拡販、衛生材料にも力



赤羽健生 社長

昭和興産インドネシア(赤羽健生社長)は、界面活性剤の輸入販売をメインに手がけ、その他エレクトロニクス関連部材や塗料原料なども取り扱っている。2014年の設立以来、増収増益を継続。今年度もコロナ禍にもかかわらず前年比増収基調で推移している。

増収を牽引しているのはエレクトロニクス関連部材。需要先の戦略商品に採用されており、その販売好調の波に乗った。

グループ拠点との連携のもと、タイ、中国の商材をインドネシア市場に推進中。駐在員事務所を昨年開設したベトナムからの仕入れも進めている。リン酸関連の製品を、リンの大生産国である中国に代わるソースとして提案している。

深刻なコンテナ不足に見舞われるなか積載効率の向上に努めている。環境負荷低減の取り組みとしても重視しており、日本の海外業務グループ

と連携し、顧客の在庫パランスに配慮しながら最適化を図っている。

昭和興産グループは中期経営計画の中で「海外関連ビジネスの強化」「成長分野への挑戦」を掲げるなか、昭和興産インドネシアの重要性もますます高まってきている。自動車・二輪車分野や医療機器分野で合成樹脂を拡販するほか、衛生材料の育成にも注力。一来年にはかなり大きな柱になる(赤羽社長)。インドネシア政府が振興するリチウムイオン電池生産に関連したビジネス機会も探っていく。

成長分野としてアグリ・食品分野に注目。とくにローカルの食品メーカーに向けた販売を強化する。すでに実績のあるパン関係に続き、飲料分野に展開する。近くホームペーパーを立ち上げる計画で、ローカル企業への訴求を強める。

インドネシアに拠点が無い日系メーカーの代理店業務も活発化する計画。販路を持つ調達先の拡販を支援しながら存在感を高めていく。